

平成16年度第10回尾張旭市交通問題懇話会

1 開催日時

平成17年3月22日（火）

開会 午前9時30分

閉会 午前11時50分

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 講堂1

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

構成員：大澤一夫、荻原善夫、奥野昌明、苅谷勝、近藤重男、櫻井栄二、
田中悦子、田中さゆり、寺田千珠子、戸松秀男、服部正勝、
林喜一、日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

市長：谷口幸治

事務局：加藤和人、長江均、森重憲、喜多野純子、大和弘明

4 議題等

(1) 第9回交通問題懇話会会議概要の確認について

(2) 試験運行の利用状況等について

(3) その他

5 会議の要旨

(1) 第9回交通問題懇話会会議概要の確認について

(構成員)

(2) 試験運行の利用状況等についての中で、事務局が利用促進の文書について庁内で再度周知を図っていきたいと発言した後に、構成員の発言として「次の会合において利用促進を依頼する文書を見せていただきたい。」という一文を付け加えて欲しい。

(顧問)

フリー乗降についての発言の中で、正式には認められていないというのではなく、条件が非常に厳しいという意味なので、「ルールを守り、条件を付けた運行になります。」と訂正しておいて欲しい。

(会長)

以上2点の訂正を行った上でホームページに掲載することにします。

(2) 試験運行の利用状況等について

(事務局)

12月は3,091人、1月は3,179人、2月は3,954人といった具合に利用者数が増えている。

最近は乗り継ぎ回数が増えているのが特徴。

のりば別の乗降者数については、傾向に変わりなく、市役所のほか、鉄道駅、病院、スーパーなどへの利用者が多い状況である。

2月10日に行われた総務委員会、3月議会での質疑内容を説明。

(会長)

次の説明に移る前に、構成員の皆様にご利用者アンケートの5段階評価を実際に今からやってみたらどうだろうか。後ほど、利用者の集計結果と自分たちで付けた点数を見比べてみると、それぞれの評価とどこが一致し、どこが違うのかがわかって、興味深いのでは。

(事務局)

資料は懇話会用に大急ぎで作成したため、内容が十分精査されていない面もあるが、その辺はご了解いただきたい。

OD調査の結果から、(西ルート上り)印場地区から老人福祉施設・平子町付近への足として、城山町・平子町からは市役所への利用が多い。

(西ルート下り)市中心部から平子地域への帰路の足として、平子町長池上から印場駅への活用が多い。

(東ルート上り)三郷地区のスーパーでの買い物客の帰路や、老人福祉施設、市役所等への利用、市の周辺部から中心部への交通アクセスとして活用されている。

(東ルート下り)老人福祉施設や買い物の帰路、三郷地域での買い物、鉄道駅へのアクセスとして利用されている。

(南ルート上り)市の周辺部から中心部への交通アクセスとして活用されている。

(南ルート下り)市の中心部から周辺部への交通アクセスとして活用されている。

それぞれの平均乗車密度は次のとおり。

西ルート(上り):2.44人 西ルート(下り):2.13人 東ルート(上り):2.07人 東ルート(下り):2.17人 南ルート(上り):1.11人 南ルート(下り):1.44人

(顧問)

平均乗車密度については、名鉄など他の運行事業者もこのように算出している。平均乗車密度を利用すると、他のバスとの比較がしやすいので、この数値を出してもらった。

(事務局)

利用者アンケートについて、回答者を年齢別に見ると「70歳以上」が約6割で、男女別だと88%以上が「女性」、職業では「主婦」と「無職」で約9割を占めている。

「自動車、バイクといった動力系の交通手段を利用できない人」が全体の約7割を占めている。

利用回数は、「週1～2回程度」が全体の約3分の1、「ほとんど毎日・週3～4回程度」が24%を占めている。

外出目的は、「買物・飲食」が最も多く26%、次に「通院」が21%、「市役所への用事」が18%となっている。

利用する理由としては、「出発地・目的地が、停留所の近くだから」、「運賃が安く経済的だから」、「他に交通手段がないから」の順になっている。

外出回数の変化については、「増えた」という回答が43%あった。

利用交通手段が以前は何だったかを見たところ、「自転車」からが22%、「徒歩」からが19%と全体の4割が肉体的負担の軽減が図られており、また、「タクシー」からも24%占めており、経済的負担も軽減が図られている。

利用者の評価としては「料金」、「運転手の対応」、「車の乗り心地」は高い数値を出しているが「運行ダイヤの間隔」、「運行時間帯」、「ルート」、「停留所の位置」、「停留所の間隔」についてはやや低調であった。しかし、数値がマイナスになる項目はなかった。(回答項目を数値化して比較)

自由意見については、項目ごとにそのままの記載内容を掲載した。

(会長)

意見を集約してあるが、意見と要望は違うものである。プラス評価とマイナス評価をどう見るか。ルート、ダイヤは不満な部分が多いため、この項目に対する自由意見の件数が多いのに関係あるように思える。

(構成員)

西ルートの回収率が低いのはなぜか(西51%、東95.1%、南66.7%)。運転手の説明不足なのか。

(会長)

東ルートの回収率が非常に高い。普通は6割程度の回収率なので、西ルートが低いというのではなく、東ルートの回収率が高いと見るべき。

(構成員)

西ルートは高齢者がたくさん利用されているので、回収率が落ちているかもしれない。

(構成員)

アンケートは乗っている間に回答できない。前回もらったのに次に乗るときに忘れてしまう。

(会長)

ジャンボタクシーの中で回収されたものと、その他で回収されたものの割合はどうなのか。ほとんどがジャンボタクシーの中で回収されたというのであれば、運転手の渡し方で回収率が違ってきたと思われる。今後もこのような調査をする場合は、各ルートとも平等になるようにしなければならない。

(構成員)

公民館等で回収されたものは1割ほどあるのか。

(事務局)

各ルートとも数枚程度しかなかった。

(会長)

今後のためにも回収率に差が生じた理由を調べておくといい。

(会長)

このOD調査、アンケート調査の結果報告は未定稿とあるが、未定稿でも情報として提供するという事でよいのか。

(事務局)

この懇話会のために作成したものであるから、これはこれとして情報提供をさせていただく。

(顧問)

利用者アンケートの評価結果と構成員それぞれ自分の評価を比べて欲しい。

(構成員)

この結果は利用できない人の意見が入っていないから0点以下になっていないと思われる。

(会長)

利用できない人の意見を聞くための市民アンケートを現在実施しているが、今のところ570通回収している(回収率38%)。昨年の実施したアンケートが28%なので、それを大きく上回っているが、利用している人の回答はそのうち1割しかいない。9割が未利用者ということになるが、年齢的には若くてマイカーを持っている人が大半である。もう少し時間をいただき、何らかの形で情報提供できればと思っている。

(構成員)

たまたま障害者の人にアンケートがあたっていたが、どうやって選ばれたのか。

(会長)

市役所による無作為抽出である。

(会長)

それでは、アンケート結果と見比べながら自分の評価などご意見をいただきたいと思う。

(構成員)

自分は運行開始までの実情を知っているので、一般の人よりもどうしても甘くなってしまう。

(構成員)

いろいろ問題があると承知で行っている試験運行なので、それを考慮すれば非常に高い評価であったと思う。

(構成員)

運行が開始したことにプラス評価をしている。運行ダイヤは1時間に1本が基本線。乗り心地はシートは良いが、ステップが非常に狭く、乗りづらいと思う。

(構成員)

全体的にはいいと思う。

(構成員)

自由意見を読んだが、だいたい皆の意見と同じである。これを改善していけばもっともっと乗る人が増えると思われる。

(構成員)

大変喜んでいるが、ダイヤ間隔を短くしてほしい。乗り心地についても荷物があると狭くなるので、中型バスくらいがいい。

(構成員)

多くの意見が出たので、これらを尊重しなければならない。これを基に4月からPRをしていきたい。

(構成員)

何もないところから出来上がったので、その観点で評価が高いと思われる。南ルート of 市民は名古屋方面へ出て行くので利用者数が少ないのかなと思う。

(構成員)

自分の評価でいくと、運行ダイヤ、乗り心地はアンケート結果よりももっと低くなる。もっとPRをすればもっと利用が増えると思う。南ルートは愛知医大へのアクセスを考えると良い。また、追加タクシーについては待ち時間に10分程度かかるし、運転手がルートを把握していない場合があるので、今後は考えていかなくていけない。

(事務局)

またしっかり指導を行う。

(構成員)

スーパーの店頭キャンペーンを行ったときに、まだ知らない人が多かった。停留所が分からない、停留所と停留所の間隔が長いという意見もあった。

(構成員)

あまり運行ダイヤの間隔、停留所の位置、停留所の間隔が個人的評価ではよくなかった。尾張旭駅に入れることには改善の余地があるのではないかな。

(構成員)

2月15日に開催された敬老会に出席したが、半分の人は知らなかった。ルート図を全戸配布しても読んでくれない人が多い。こういう人にどうPRしていくかが問題。

(構成員)

運行ダイヤの間隔は評価が低い。今の車両を大きくするよりは2台にした方がよい。そうすることによって1時間30分の運行間隔が45分間隔になる。

(構成員)

労災病院西からどうだん亭まで停留所がないので、その辺を苦慮している。

(3) その他

(事務局)

2月23日に行われた平成16年度第2回愛知県バス対策協議会において、名鉄バス「藤ヶ丘～印場駅～森林公園ゴルフ場前」の路線について、18年度(平成17年10月1日～平成18年9月30日まで)公的補助の申し出があったことと、同路線の16年度公的補助の運行結果は、収益があったため補助額は0円となったことを報告。

平成17年1月31日に名鉄バス、名古屋市交通局それぞれに、ルートの新設、ルートの変更、運行時刻の変更を要望した。

企画課としては、いろいろな地域で尾張旭市公共交通の話をさせていただくために、尾張旭市の出前講座メニューに登録したので、利用していただきたい。

来年度について、試験運行期間中の見直しについても皆様に引き続きお願いしたいが、各種団体でいろいろご都合もあると思われるので、それぞれの方にご相談させていただきたいと思う。

(会長)

市の方から今後も構成員の皆様に相談があると思うので、よろしくお願いします。

(構成員)

再び前の話に戻って申し訳ないが、庁内で利用促進をPRするとお答えいただいたが、健康づくり推進委員の開催通知には何も書いてなかった。各課でどのように実行されたかを見せて欲しかった。

(事務局)

申し訳ありません。ただ、各課には再度通知を出して、ジャンボタクシーの時間に合せた時間帯で会を開催してもらうようには依頼してある。

(会長)

これからは実績主義なので、来年度何かしら開催される場合はどれだけそうした記載があったかを報告してもらいたい。

(構成員)

ジャンボタクシーの利用促進に関する地域の自主活動の例として、「あさひだい自治会通信」、「コミュニティ城山」を紹介させていただきます。また、平子地域の各町内会においてもチラシを活用して利用促進を呼びかけております。

(事務局)

それでは16年度も最後になりましたので、市長、顧問、会長からそれぞれあいさつをいただきます。

(市長)

懇話会をのべ10回開催させていただき、活発なご議論をいただきありがとうございました。運行前はどれだけ利用してもらえるか心配でしたが、順調に利用者数も増えています。今後さらなる利用増進のため、可能なところから改善を進め、より利用しやすい、真に市民の生活の足となるようにしていきたいと思っております。伊豆原先生や加藤先生を始め、交通問題懇話会構成員の皆様には、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、私からのお礼の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(顧問)

先日、市民の力でバスを走らせた醍醐へ行ってきました。ここは一乗車200円だが、一日乗車券は300円である。また、協賛金をもらってやっ払いこうとしているのが三重県の松坂市。尾張旭市は後発部隊なので、これらの市や地域のようにいろいろな仕組みや知恵を出し合ってやっ払いなくてはならない。これからもお互い知恵を出し合うという形でよろしく願いたいと思います。

(会長)

懇話会の成果としての試験運行はゴールでなく、スタートである。①公共交通のスタート、②市民参加型システムのスタート、③市民による市民のための

公共サービスの一つの事例になったこと。皆様には引き続きこの3つのスタートを念頭においていただき、今後ともご協力いただきたいと思います。